

主張

金属労協副議長／全電線中央執行委員長 海老ヶ瀬 豊

70年に想うこと

今年はよく70年という言葉を目にします。ひとつは「戦後70年」この言葉はみなさんもテレビ・新聞を通じて同じ思いでしょう。そしてもうひとつは、全電線の組織結成70周年です。来年その70周年を迎え、記念行事関係を行うにあたり、会議を含め70周年という言葉をよく聞きまし、言葉にもしました。

戦後70年

私は戦争を知りません。知りませんと言うより、経験をしたことがないと聞いた方が適切で、見聞きした情報のみしか分かりませんが、私のその少しの情報でも戦争というもののが、いかに残酷で悲惨なものなのか、容易に理解することが出来ず。

私の戦争に関する記憶で一番古いのは、母から聞いたものであり、母は14歳〜17歳までの戦時中の体験を、私が小学生の時から今でも事あるごとに話してくれます。母は当時米農家でしたが、戦時中に白米は食べることが無く、みんな兵隊の食料として徴発され、子供ながらに「何で作って食べられないの」と思ったそうです。幸い新潟だったことで、大きな空襲は無かったみたいですが、いつもB29が空を飛んでおり、いつ爆弾を落とされるか生きた心地がしなく、また敵と戦うため竹槍の訓練も受けたそうです。そんな母が会話の最後に言うことは、「戦争は残された女性・子供を不幸にする。女性は平和を望むし、子供は国の宝、そんな両者を不幸にして、何が御国のためだ」、この言葉は戦争を体験したか

らこそものだと私は感じています。また今まで、沖縄や広島など実際に行って見てきたこと、さらにテレビでは最近米軍の資料が公開されてきており、硫黄島の戦いと沖縄戦を当時の映像で見ることが出来、今では考えられない残酷なことが行われていたことを目の当たりにしました。

全電線70年前の結成時

そしてもうひとつの70年として、

全電線の組織結成時の70年前を振り返り、当時の状況についてお話ししたいと思います。

昭和21年7月2日、東京京橋公会堂において、23組合3000名の代表を迎え全電線の結成大会が開催され、労働組合法による届出番号は「連合体の18番」で結成がされました。

また当時の情勢としては、①敗戦後の大混乱で社会の秩序が著しく乱れていた、②生活の必需物資が乏しく衣住などは論外で生活飢餓状況であった、③戦後の経営の目的が全然立ち得なかった、④労使関係法規は何一つなかった、⑤労働者も労働組合とは何かというような初歩的なことが全く知られていなかった、⑥主食の欠乏が甚だしく、その為に物価は日に日に上り、これに起因する政治経済一大不安が続いていた、との

状況でした。このようななか、いち早く労働組合を結成することを判断し、活動された発足当時の先輩方のおかげで、現在があるのは言うまでもありません。

その後、同年8月20日に関西支部結成大会が開催されましたが、その準備が整うまで、思想動向や方向性に不安があり、このとき分裂していれば、それぞれ別の上位団体に加盟を余儀なくされることになったとのことから、進むべき道を的確に判断し、進まれてきたものと考えます。

このように企業として戦時中の大変な状況を耐え凌ぎ、また戦後の混乱期のなか組織をまとめ組合を結成し、今日まで諸先輩方が全電線を築き上げてきたことに対し、敬意を表するとともに私もその一人となれますことに誇りを持ちたいと思います。

70年間の移り変わり

そのような結成時のいきさつがあり、70年という月日を重ねてきたわけですが、この間の組織人員の推移は、1946年の結成時12000人から1972年の

47800人まで右肩上がりに増えてきました。その後1994年の46900人まで4万人代をキープしておりましたが、その後は右肩下がりに減り続け、現在は23600人とピーク時の約半数となりました。

電線業界の動向を見ますと、銅電線出荷量でその状況を見ることが出来ますが、その数値が分かる1948年の5・8万トンから、その後は戦後のインフラ整備などで、年々増え続け1968年に50万トンを超え、1987年には100万トンを超えました。そして1990年の121万トンをピークに、電力需要も落ち着くことで少しずつ下がり続け1998年には100万トンを切りました。それでも数年80万トン台をキープしておりましたが、リーマンショックで一気に2009年は66万トンまで落ち込み、現在はやっと70万トンを2年続けて超えている状況です。

しかし、その量はまだまだ多いとは言えず、今後は省エネにつながるケーブルの開発などで、需要を増やしていくとともに、電力ケーブル以

外でも生き残れる体制作りが必要であり、そのことが組織の発展にもつながることと考えます。

組織結成70周年に向けて

全電線は来年組織結成70周年を迎えます。

昨年度の結成70周年記念行事検討委員会では、組織結成以降、全電線運動の前進・発展に向け、常に邁進してきたこれまでの努力を讃え合うとともに、今後一層の飛躍を期すために、記念行事の一環として記念レセプションを開催していくことを決定しました。少しでも多くの方と喜びを分かち合いたいと思います。



金属労協副議長／全電線中央執行委員長
海老ヶ瀬 豊 えびがせ ゆたか

1963年5月31日生まれ
千葉県出身

1982年 古河電気工業(株)入社
1989～94年 古河電工労組千葉支部執行委員
1999年 古河電工労組千葉支部書記長
2002年 古河電工労組中央執行委員
2006年 全電線中央副書記長
2008年 全電線中央書記長
2010年 金属労協副議長／
全電線中央執行委員長に就任、
現在に至る。

そしてこの結成70周年を機に、産別に結集する意義と、良き伝統であります「組織を超えての暖かい人間関係を基盤にした、相互信頼・相互理解」の精神を今一度再確認し、「加盟単組との結束」を大切にしながら、全電線に集う単組・組合員にとつて、より求心力のある産別組織をめざし、運動のさらなる前進に向け果敢に挑戦をしてまいります。

最後に、さらなる飛躍と前進を誓い、組織結成から現在までの70年というこの年数を、これからさらに積み重ねていくことを、組合員みんなと挑戦し続けていきます。